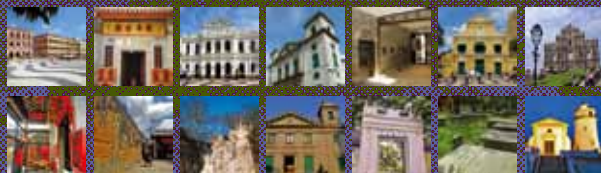




MACAO

WORLD HERITAGE

世界遺産の街 マカオ
日本語版



澳門世界遺產
MACAU
PATRIMÓNIO MUNDIAL
WORLD HERITAGE



珠海



Content

- [illegible]

「マカオ歴史市街地区」を気ままに歩く



- 1 媽閣廟
- 2 バラ広場
- 3 港務局
- 4 鄭家屋敷
- 5 リラウ広場
- 6 聖ローレンス教会
- 7 聖ヨセフ修道院及び聖堂
- 8 聖オーガスティン広場
- 9 聖オーガスティン教会
- 10 ドン・ペドロ5世劇場
- 11 ロバート・ホー・トン図書館
- 12 民政総署
- 13 セナド広場
- 14 三街会館(關帝廟)
- 15 仁慈堂
- 16 カテドラル(大堂)
- 17 カテドラル(大堂) 広場
- 18 盧家屋敷
- 19 聖ドミニコ広場
- 20 聖ドミニコ教会
- 21 聖ポール天主堂跡
- 22 イエズス会記念広場
- 23 旧城壁
- 24 ナーチャ廟
- 25 モンテの砦
- 26 カモンエス広場
- 27 カーサ庭園
- 28 プロテスタント墓地
- 29 聖アントニオ教会
- 30 ギア要塞(ギア教会とギア灯台)

① 媽閣廟 A-Ma Temple

媽閣廟はマカオで最も起源の古い寺院であり、廟内では貴重な歴史的工芸品を見ることができる。寺院の建物はマカオで最も古い建造物でもある。廟内には「神山第一」殿、弘仁殿、觀音閣、正覺禪林などがある。16世紀、ポルトガル人が最初に上陸したときにこの土地の名前を尋ねたところ、地元の人が誤解して「アマガオ」と媽閣廟の名前を教え、それが時代とともに簡略化されポルトガル語で「マカオ」となった。

所在地：バラ広場 開館時間：07:00～18:00





② バラ広場 Barra Square

媽閣廟の前に広がる、内港に面した石畳の広場。黄土色とグレーを主体としたポルトガル式モザイクが波模様に敷き詰められ、流れる水のイメージが海辺の雰囲気の色濃くしている。

所在地：媽閣廟の前



③ 港務局 Moorish Barracks

1874年イタリアの建築家カーストにより建設された。当時はゴアから派遣されたインド人部隊の兵舎として使用されていたが現在は海事水務局として利用されている。建築様式にはイスラムの影響がうかがえる。

所在地：Calçada da Barra

開館時間（回廊のみ）：09:00～18:00



④ 鄭家屋敷 Mandarin's House

1869年に建設された著名な中国人思想家、鄭觀應の旧邸宅。窓の形、屋根、構造、建築素材など伝統的な中国式家屋の中に、灰色のレンガ、インド式天井、扉上のアーチ、窓の開閉方法など西洋の装飾様式も取り入れている。

所在地：No.10 António da Silva Lane

開館時間：10:00～18:00

(17:30以降は入場不可、

水曜休館、祝日は開館)



⑤ リラウ広場 Lilau Square

リラウとはポルトガル語で「山泉」の意味。昔はこの地下水がマカオの主要な水源だった。内港の近くに位置し、ポルトガル人が最初に住み始めたところでもある。「リラウの水を一度飲んだ者は二度とマカオを忘れない。この地に留まるか、再び戻って来るだろう」というポルトガル語の言い伝えがあり、地元の人々のこの広場に対する愛着が表現されている。リラウ広場の周囲はほとんどがポルトガル様式のアパートで、一帯には南欧の風情が漂っている。



⑥ 聖ローレンス教会 St. Lawrence's Church

最初の建物は1600年代半ばに建てられ、マカオで最も古い3つの教会の1つ。現在の外観になったのは1846年である。教会の周囲は裕福な住宅地であったため、この建物も堂々とした風格を備えることになった。教会の外観は新古典様式でバロック調の装飾も見受けられる。

所在地：Rua de São Lourenço

(印刷局側の門から入場)

開館時間：07:00～21:00



7 聖ヨセフ修道院及び聖堂 St. Joseph's Seminary and Church

1728年に建築され、中国及び東南アジアでの宣教活動に貢献した多数の優れた人物を輩出した修道院。その後1758年に建てられた聖堂には聖ポール教会との類似点がいくつもある。建築様式はバロック様式で、ドーム型の天井はマカオでは大変珍しい。堂内には聖フランシスコ・ザビエルの遺骨が祀られている。

所在地：Rua do Seminário

開館時間（聖堂）：09:00～18:00

（Rua do Seminário側の門から入場）

（修道院は一般公開されておりません）



8 聖オーガスティン広場 St. Augustine's Square

さほど大きくはなく、静寂感が漂う広場。周囲には聖オーガスティン教会、ドン・ペドロ5世劇場、聖ヨセフ修道院及び聖堂、ロバート・ホー・トン図書館など、歴史的建造物が並ぶ。ポルトガルの伝統的な景観を備えた石畳の広場である。

9 聖オーガスティン教会 St. Augustine's Church

最初の教会は、1586年にスペインのオーガスティン修道会の神父達によって木造の神学校として建設された。その後1591年に聖オーガスティン広場に移設された。当時、神父達は雨が降るたびにシュロの葉で教会の屋根を覆っていた。そして風にあおられた葉が龍の髭に見えたことから、「龍鬚廟」と呼ばれるようになった。教会のファサードは2段階に分かれておりその上部はペディメントで飾られている。入口の両側には2本の御影石製の円柱がある。内部の柱はアーチ型の屋根を支えており、教会を3つに分割し簡素かつクラシカルな様子がうかがえる。現在の教会は1874年に再建されたものであり、マカオで初めて英語による説教が行われたところでもある。

所在地：No.2 Santo Agostinho Square

開館時間：一般には非公開

パッソス聖体行列

カトリックの伝統行事で、毎年イースターに信者がキリスト像を掲げて聖オーガスティン教会を出発、セナド広場を通ってカテドラル(大堂)まで巡行する。大堂では夜を徹して祈りが捧げられ、翌日キリスト像は聖オーガスティン教会へと巡行により戻される。





10 ドン・ペドロ5世劇場 Dom Pedro V Theatre

1860年にポルトガル国王ペドロ5世を記念してポルトガル人によって建設された。建設当初は劇場部分のみだったが、1873年に新古典様式のファサードが増築された。中国における最初の西洋式劇場で、マカオ在住のポルトガル人の社交場として使われていた。現在では演劇やコンサート会場として利用されている。

所在地：Santo Agostinho Square

開館時間：10:00～18:00

(火曜休館、祝日は開館)



11 ロバート・ホー・トン図書館 Sir Robert Ho Tung Library

1894年以前の建設。ドナ・キャロリナ・クーニャの邸宅を1918年に香港の富豪ロバート・ホー・トン卿が購入し、別荘として使用。ホー・トン卿が1955年に亡くなった後、氏の遺言により、マカオ政府に公立図書館として寄贈され、1958年に正式に開館した。

所在地：No.3 Santo Agostinho Square

開館時間(図書館)：10:00～19:00(月～土曜)

11:00～19:00(日曜)

12 民政総署 “Leal Senado” Building

1784年にマカオ市政局として建てられたが、その後何度も改築が施された。現在の建物は1874年に改築されたもので南欧の建築様式の特徴を持つ。1929年に開館された2階にある図書館は、ポルトガルのマフラ修道院図書館をモデルにしたとされ、年代物の調度品が多く並ぶ。17世紀から1950年代にかけての、特にポルトガルの、アフリカと極東における活動を記録した外国書籍も所蔵。中国最初のポルトガル語版「A Abelha da China」も所蔵されている。

所在地：No. 163, Avenida de Almeida Ribeiro

開館時間(ギャラリー)：09:00～21:00(月曜休館、祝日は開館)





13 セナド広場 Senado Square

セナド広場は長年マカオの中心地として親しまれており、多くのイベントや祝典の開催地となっている。広場を取り囲む建物は19世紀から20世紀に建てられたものである。1993年に白と黒の波模様の石畳が敷かれたことにより、周囲の建物の鮮やかな色が引き立ち、地中海の雰囲気により一層強調された。

所在地：民政総署の向かい



14 三街会館(關帝廟) Sam Kai Vui Kun (Kuan Tai Temple)

標識が今も残る旧マカオ市場の跡地に建つ。元々は商人達の会合場所で、地元の中国人社会により大切に守られてきた。1912年にマカオ中華総商會が設立される以前、この廟周辺はマカオの中国貿易の中心地であった。市場が衰退した後、廟の貴重性が重視されるようになった。

所在地：Rua Sul do Mercado de São Domingos

開館時間：09:00～18:00

15 仁慈堂 Holy House of Mercy

慈善活動を目的に、マカオ最初の司教によって

1569年に創立された団体。仁慈堂は中国における保育園、孤児院も併設する最初の西洋式病院を設立した。本館は18世紀中頃に建てられたが、現在見る事ができる新古典様式構造の由来は1905年に遡る。建物側面の入り口から併設する博物館に入館できる。博物館ではマカオにおけるキリスト教の布教活動と設立の過程をうかがい知ることができる。

所在地：Senado Square

開館時間(博物館)：

10:00～13:00、14:30～17:30

(月曜・祝日休館)



16 カテドラル(大堂) The Cathedral

1622年に建てられた聖母マリアを奉る教会で、マカオで最も重要なカトリック教会のひとつである。ファサードはステンドグラスの窓で飾られた簡素な装飾。教会内の祭壇の下には16世紀から17世紀までの歴代主教の遺骨が埋葬されている。中国返還前は歴代のマカオ総督が就任時に大堂を訪問し聖母マリア像の隣に笏を置いた。

所在地：No. 1 Cathedral Square.

開館時間：09：30～18：00



17 カテドラル(大堂)広場 Cathedral Square

宗教的見地、歴史的観点からも広場を囲む大堂とその周辺の建物は非常に価値のある建造物である。



18 盧家屋敷 Lou Kau Mansion

1889年に建てられたとされる、著名な商人だった盧九(ロウ・カウ)一家の邸宅。灰色レンガを使用した中国式二階建て邸宅で、清代後期西関建築様式の典型。内装は東洋と西洋の混合様式で風水を取り入れて設計されている。例えば入り口に置かれた屏風は家に和をもたらすとされ、その他にも精密なレンガの彫刻、満州様式の窓、ポルトガル様式のブラインドなども施されている。

所在地：No.7, Travessa da Sé

開館時間：10:00～18:00

(17:30以降は入場不可、月曜休館、祝日は開館)



19 聖ドミニコ広場 St. Dominic's Square

聖ドミニコ教会の前。歩き疲れた人々の休憩の場としてだけでなく、周囲には飲食店、服飾店、化粧品店などが並ぶ。



20 聖ドミニコ教会 St. Dominic's Church

1587年にドミニコ会の神父達によって建てられた中国最初の教会。当初は木造だった。教会のデザインは荘厳でバロック式の祭壇は特に崇高なものがある。併設されている博物館には、マカオのカトリック教聖具や遺物など300点以上の所蔵品が展示されている。

所在地：St. Dominic's Square 開館時間：10:00～18:00



聖母ファティマの行列

毎年5月13日午後に行われる聖母ファティマの行列では、女性カトリック教徒が白い衣服に身を包み聖母ファティマ像を肩に担いで、聖ドミニコ教会からペンニャ教会へと向かう。





21 聖ポール天主堂跡 Ruins of St. Paul's

聖ポール天主堂跡とは、1602年から1640年の間に建てられた聖母マリア教会のファサードの部分指します。

聖母マリア教会は、極東で初の西洋式の大学・聖ポール大学の一部でした。

1835年の火事で、ファサード、基礎部分の大半と教会前の階段を残して、大学と教会は焼失してしまいました。

東洋と西洋の様式が融合したこのファサードは、今なおマカオの象徴的な祭壇として街を見守っています。

所在地：イエズス会記念広場の前
開館時間(天主堂芸術博物館)：

09:00～18:00(17:30以降は
入場不可)

09:00～14:00(火曜日のみ)

(祝日は通常通り開館)





22 イエズス会記念広場 Company of Jesus Square

広場を囲む建築物は、19世紀新古典様式の2つの建物を除き、1920年から1930年の間に建築された。





23 旧城壁 Section of the Old City Walls

1569年頃からポルトガル人によってマカオに城壁が築かれた。初期の地図によると西の内港を除きその他の市街地区はこの壁に囲まれていた。その後、要塞も築かれマカオは防衛体制が整っていった。現存の城壁はその一部である。

所在地：聖ポール天主堂跡側



24 ナーチャ廟 Na Tcha Temple

1888年に当時蔓延した伝染病を鎮めるため建てられた。聖ポール天主堂跡に比べると非常に小さく簡素ではあるが、デザインに施された現実と幻想のコントラストが繊細かつ精巧な印象を与える。

所在地：聖ポール天主堂跡側

開館時間：

(ナーチャ廟) 08:00～17:00

(ナーチャ博物館) 10:00～18:00

(17:30以降は入場不可、水曜休館、祝日は開館)



25 モンテの砦 Mount Fortress

1617年から1626年の間に建てられ、総面積約10,000平方メートルの台形をした、マカオにおける主要な防衛基地だった。300年以上の間祭壇として使われていたところだが、ポルトガル人によって砦に改造された。砦はその後、総督の邸宅、兵舎、監獄、気象台とその機能を変えていった。現在はマカオ博物館として使われている。展望台からは聖ポール天主堂跡とマカオの全景が楽しめる。

所在地：マカオ博物館前

開館時間(博物館)：10:00～18:00 (17:30以降は入場不可、月曜休館、祝日は開館)





26 カモンエス広場 Camões Square

カモンエス庭園、聖アントニオ教会、プロテスタント墓地に囲まれ、緑やベンチが多く、地元の人々の憩いの場として親しまれている。

27 カーサ庭園 Casa Garden

ポルトガルの貴族、政治家、富豪商人であるマヌエル・ペレイラの別荘として1770年に建てられ、マカオで最も美しい別荘と言われている。その後、東インド会社が借り上げ、1960年代には美術館として改築され、現在は東方基金会在所有している。

所在地：Camões Square (カモンエス広場) の隣

開館時間(ギャラリー)：09:30～18:00

(土曜・日曜・祝日休館)

開園時間(庭園)：09:30～18:00



28 プロテスタント墓地 Protestant Cemetery

元の名は東インド会社墓地。マカオ最初のプロテスタント墓地である。墓地と隣接する礼拝堂は1821年に建てられた。イギリス、アメリカ、ドイツ、オランダなどの役人を含む多くの人々が埋葬されており、有名なイギリス人画家ジョージ・チナリーもここに眠っている。1922年に改築された。

所在地：Casa Garden

(カーサ庭園) の隣

開園時間：08:30~17:30



29 聖アントニオ教会 St. Anthony's Church

1558年から1560年の間に建てられたマカオで最も古い3つの教会の1つ。元の建物は1874年9月22日に焼け落ち、現在の建物は1930年代の再建によるもの。毎年9月22日にはこの出来事を記念して市民が聖アントニオ像を肩に担ぎ巡行する行事が行われる。過去には多くのポルトガル人がここで結婚式をあげたことから、中国名で「花王堂」(花の教会) と呼ばれるようになった。

所在地：Santo António Square

開館時間：09:00~17:30





30 ギア要塞(ギア教会とギア灯台を含む) Guia Fortress

ギア要塞は1622年に建てられ、マカオで一番標高が高くマカオ半島を一望することができる。要塞にはギア灯台と教会があり、1622年に建設されたギア教会の内部では中国と西洋の画法が融合されたフレスコ画を見ることができ、マカオの教会の中でも最もユニークなものである。

所在地：ギアの丘の頂上

開館時間：(ギア教会) 10:00～17:00 (写真撮影不可)

(ギア灯台)：一般には非公開



マカオ歴史市街地区(バス路線番号)

媽閣廟*、バラ広場	1, 2, 5, 6B, 7, 9, 10, 10A, 11, 18, 21A, 26, 28B, MT4, N3
港務局	18, 28B
リラウ広場、鄭家屋敷	9, 16, 18, 28B
聖ローレンス教会*	9, 16, 18, 28B
聖ヨセフ修道院及び聖堂* 聖オーガスティン広場、ドン・ペドロ5世劇場 聖オーガスティン教会* ロバート・ホー・トン図書館 民政総署 セナド広場 三街会館(關帝廟)* 仁慈堂 聖ドミニコ広場 聖ドミニコ教会* カテドラル(大堂)*、カテドラル(大堂) 広場 盧家屋敷 聖ポール天主堂跡* イエズス会記念広場 旧城壁 ナーチャ廟* モンテの砦	2, 3, 3A, 3X, 4, 5, 6A, 7, 8A, 10, 10A, 11, 18, 18A, 19, 21A, 26A, 33, N1A, N1B, N3
カモンエス広場 カーサ庭園 プロテスタント墓地* 聖アントニオ教会*	8A, 17, 18, 18A, 19, 26
ギア要塞(教会*)	2, 2A, 6A, 12, 17, 18, 18A, 19, 22, 23, 25, 25X, 32

マカオ歴史市街地区お薦めウォーキング・ツアー

- 1 日目:
バラ広場 → 媽閣廟 → 港務局 → リラウ広場 → 鄭家屋敷 → 聖ローレンス教会 → 聖オーガスティン広場 → ドン・ペドロ5世劇場 → 聖ヨセフ修道院及び聖堂 → ロバート・ホー・トン図書館 → 聖オーガスティン教会
2 日目:
民政総署 → 三街会館(關帝廟) → セナド広場 → 仁慈堂 → 聖ドミニコ広場 → カテドラル(大堂) → カテドラル(大堂) 広場 → 盧家屋敷 → 聖ドミニコ教会 → イエズス会記念広場 → 聖ポール天主堂跡 → モンテの砦 → ナーチャ廟 → 旧城壁
3 日目:
聖アントニオ教会 → カモンエス広場 → カーサ庭園 → プロテスタント墓地 → ギア要塞

* 印がついた個所は礼拝の場ですので静粛にお願い致します。

建物の中での飲食はご遠慮下さいますようお願い致します。

詳細は右記をご覧ください。: www.macaupatrimony.net



マカオ特別行政区政府観光局
www.macaotourism.gov.mo
www.tabi.com/macau (日本語)

掲載内容は出版時のデータに基づいて作成しております。

非売品